

リレー随筆

漫 画 で 学 ぶ . . .

鹿児島大学病院 福德 聡

それは突然送られてきた。2年間の研修も終わりに差し掛かるというところで初めて大学病院以外の施設で研修を始めた11月の初旬のことである。鹿児島市医師会と宛名の書かれた封筒が無造作に研修医用デスクに置かれていた。その宛名を見た瞬間、私は気づいてしまった。私のところにもついにリレー随筆が回ってきたと。送られてきた書類は『リレー随筆』への執筆についてご快諾賜り誠にありがとうございます。』という文面が始めに載せられていた。おかしい……。私は確かに堀口先生からのご依頼を辞退したはずだったのだ。2回も同じ趣味の話が載るのはいかなことが、そう告げて。堀口先生は「いいじゃないか、同じ内容の話が続いても」、そう言って私を説得しようとしていたが私はそれを拒絶し、済生会川内病院に行けば頼める相手がいないし、無理だ。そう言って大学病院を後にしたのだった。しかし、私の拒絶を堀口先生は意に介さず、その結果が今の状態である。幸い、次に書いていただく先生も見つかり、一安心したところでそれではそろそろ私も取り掛からねばと思い、今この原稿を書いているのである。しかし、今この原稿を書いている日付、実は締め切り日前日である。次の寄稿していただく先生が見つかりホッとしたところで年末年始に差し掛かり、気づけばぎりぎりの時期になってしまっていたのだ。さて、前置きが長くなったところで本題に移ろうと思う。前回のリレー随筆ではおそらく『アイドルマスター』について堀口先生が熱い随筆を書いていたことだろう。私も『アイ

ドルマスター』について書けばいいじゃないかと堀口先生はおっしゃっていたが残念ながら私は『アイドルマスター』について堀口先生ほどの熱意も、知識も持ち合わせておらず、私が『アイドルマスター』について書いたとて堀口先生の随筆より劣化したものになるのは明白である。それならば何を書こうか。長い前置きを書いてしまったが、タイトルを先に見ていれば私が何について書くかは明白であろう。そう、漫画についてである。私の漫画を読む趣味はもう20年以上にもなる。他にも一時的にハマる趣味もいくつかあったが今でも途切れず続いている趣味は漫画しかないのである。さて、ひとえに漫画といっても非常に多彩なジャンルがある。漫画をあまり読まない方々にはピンと来ないかもしれないが、漫画にもブームがある。日常と隔絶された空間に隔離され、さまざまな無理難題を課せられ、それにクリアできなければ命を落としてしまう『デスゲーム』ものや、単純に料理漫画が流行り、少しでも内容にインパクトをつけようと、料理ジャンルを弁当だけに絞った漫画や、みそ汁だけに絞った漫画などが数多く輩出されたこともあった。知能戦が好評を博した漫画原作の映画が流行れば次々に知能戦をメインに据えた作品が世に出る。漫画にも様々なジャンルがあり、それらがブームを作ってきたのだ。では、今はどんなジャンルが流行っているのだろうか。これは人によって意見が分かれるかもしれないが、私は「LGBTQ」についての漫画であると思う。LGBTQを知らない方に説明するがLGBTQは

性的マイノリティの種類を頭文字で並べた単語である。レズ、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、そしてLGBTで表すことのできない性的マイノリティ全般をQueer, Questionとして表現したものである。最近では日本でもこのLGBTQに関連した政策も出ており、渋谷区では同姓カップルを「結婚相当」とする条例が成立したというニュースが話題になったこともあった。そのようなLGBTQ関連の政策を受けて、まだまだ一般に浸透していないLGBTQの苦しみや葛藤、問題を描いた作品が近年増えてきているのだ。私はLGBTQには含まれないが、大切な友人や家族の中にもLGBTQである方はいるかもしれない。もし友人や家族にLGBTQの方がいることが分かったとして、少しでもそれらの方々を理解するために、私もこのLGBTQ作品を何作か読んでいる。人によっては漫画はただの娯楽、読んだところで何の知識にもならないと思われるかもしれないが、私は漫画から学べることもあると思っている。そういうわけですから前置きが長くなってしまったが、私がおススメするLGBTQの漫画についていくつか紹介しようと思う。

1作目：青のフラッグ 少年ジャンプ+コミックス 著者 KAITO 既刊 5巻

最初に紹介するのはこちらの漫画。少年ジャンプのコミックアプリ、少年ジャンプ+にて連載中の作品になります。主人公たちは高校生の男女数人。メインの主人公は低身長、不器用な人間でスクールカースト下位にいるような少年です。本人はスクールカースト下位としての自分を自覚しており極力目立たないように生きていました。しかし、スクールカースト上位であるのに主人公と友人を続けている少年があり、自分と同じスクールカースト下位の女の子がその友人を好きになったことから物語は始まります。話が続いていく中で

徐々に明かされる10代の少年少女たちの悩み、そのなかの一つに同性愛が出てきます。悩みのうちの一つといってもとても大きな問題で、読者はこの作品を読む中で同性愛で悩んでいるキャラクターがいることに気づきますが、物語の主要メンバーの多くは未だその事実には気づいていない状態です。同性愛の社会的な問題にこそ触れてはいませんが、同性愛者がそのことを周りにカミングアウトができずに悩み、同性愛者であることを知らされてないがゆえに衝突することも多々見受けられます。LGBTQの方々の心情表現はさることながら、それ以外の青春ものとしてのレベルも非常に高い作品となるので気になる方はぜひ一読をしていただければと思います。

2作目：しまなみ誰そ彼 ビッグコミックススペシャル 著者 鎌谷悠希 全4巻

この作品は非常に様々な性的マイノリティのキャラクターが出てきます。主人公もその一人でゲイであること、学校に好きな人がいることを周りに隠して生きていました。それがひょんなことから性的マイノリティの方たちで構成された古民家修復ボランティアの集団と知り合うことになります。その集団の中にはレズ、ゲイ、アセクシャル、女装趣味のキャラクターなど、様々な性的マイノリティを持っています。また、青のフラッグと違いそれを周囲に隠していないことがまた1つの魅力です。カムアウトしているがゆえに世間の偏見がダイレクトに表現されており、それでも物語の中のキャラクターたちは幸せになるために、まわりの理解を得られるために奮闘していきます。なかには理解されなくても自分たちが幸せであればいいという考え方や、相いれない人もいるということも表現されていて、フィクションではありますが非常にリアリティのある作品となっています。自分たちがLGBTQの人に会ったとき、果た

してこの作品で出てくるような偏見を持ってしまわないかという疑問も湧き上がってくる良作です。LGBTQに対する偏見にどのようなものがあるか気になった方はぜひご一読を。

いかがでしょう。LGBTQについての作品は他にもまだまだあるけれど、私が上手く(できているかはわからないけれど)お勧めできる作品は上記の2作だけですが、これらの作品がこのリレー随筆を読んだ方々のLGBTQを学ぶきっかけになることを願います。

次号は、鹿児島大学病院の高木博佑先生のご執筆です。
(編集委員会)

